



佐倉市宮本宮後遺跡C地区

南部川により浸食された標高約35mの台地上に位置する遺跡です。今回の調査では、東側の台地で弥生時代から奈良・平安時代にかけての墓域が、西側の尾根沿いで縄文時代から奈良・平安時代にかけての集落が検出されました。特に弥生時代の遺構が多いのが特徴です。

弥生時代集落跡

西側にある尾根の奥の部分からは弥生時代の住居跡が41軒検出され、この時代の集落があったことがわかりました。



弥生時代土器棺墓

尾根の最奥部にある土坑から、弥生時代の壺やガラス小玉が出土しました。この遺構は土器棺墓と考えられます。



遺跡発表会 タイムテーブル

10:30
11:00 ~ 11:15
11:15 ~ 12:15

開場
開会
基調報告「宮本宮後遺跡 C 地区について」
印旛都市文化財センター 調査係長 鬼頭秀暢

昼休憩

13:15 ~ 14:45

講演「房総の弥生集落を考える」
日本大学教授 浜田晋介

休憩

14:55 ~ 15:25

対談「北総台地から「弥生」を語る」
日本大学教授 浜田晋介
白井市郷土資料館館長 高花宏行

15:30

閉会